



2024年2月 診療カレンダー

住所: 東京都中央区日本橋大伝馬町13-8
メディカルプライム日本橋小伝馬町3階
TEL:03-3639-3110 FAX:03-3639-3112

2024年3月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	1	2

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

花粉症はじまっています
お気軽にご相談ください

新しい予約システム

18時最終受付

「今月の言葉」

道徳なき経済は犯罪であり
経済なき道徳は寝言である

～ 二宮尊徳/内村鑑三～

一般診療	月	火	水	木	金	土	日
10:00-13:00	●	●	●	●	●	●	×
15:30-19:00	×	●	●	●	●	×	×

●9:00-12:30



お知らせ

演奏会に出演します(^^)

チケットご希望の方は招待券をお渡しいたしますのでお声がけください

<FAF管弦楽団 第65回演奏会>

2月18日(日)13:30開演 すみだトリフォニー大ホール
チャイコフスキー交響曲第5番 その他



お金のむこうに人がいる



寒い日が続きますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか突然ですが皆さんはお金のこと、経済については詳しいですか？私はあまり詳しくありません。私の父は物理学者でしたので家でもお金や経済のことが話題になることはなかったですし、自分が社会人になってからも医師という職業柄か、経済関連に興味を持つことはありませんでした。私がお金や経済について関心を持つきっかけとなったのはコロナの流行です。コロナ禍における自粛ムードが広がるなか「医療が大事か、経済(を回すこと)が大事か？」ということがテレビでもよく討論されていました。私は医師として「まずは医療こそが大事だ」と思っていたのですが、医療をやるにしても当時はマスクや手袋や消毒液が圧倒的に不足し、知り合いに頼んで譲ってもらい、なんとかギリギリでその場をしのいでいる状況でした。「医療が大事」といってもそれを支えるためには、医療従事者である私たちだけではなく医療品の製造に携わる生産者や流通業者など多くの方々力もなくてはならないという当然の事実気づかされたのでした。

さて、人を幸せにするためには経済も重要だと言われています。新聞やいろいろなメディアで経済関連のコラムをみると、経済の専門家の方々の意見や今後の見通しは必ずしも同じではなく、むしろ正反対の意見もあったり一体何が正しいのかを判断することは難しいです。エコノミストである兄にその話をしたところ「経済は純粋な学問じゃないんだよ」とのこと。そういうものなんだな・と自分でそのときは納得しましたが、お金や経済の本質的なものって結局は何だろうという疑問はそのまま自分のなかに残っていました。

そのようななか、1年ほど前に手に取った「お金のむこうに人がいる」という本は大変読みやすく、自分が持っていた疑問に対するヒントでもあり、とても共感できる本でしたのでご紹介させていただきます。この本の作者の田内学さんは元ゴールドマン・サックスの金利トレーダーで、それこそ「お金って?」「稼ぐって?」「投資って?」とお金のことや経済を専門に仕事をしてきた方です。詳しくはその本を読んでいただきたいのですが、そのお金の専門家がたどり着いた驚くべき結論は「社会全体の問題はお金では解決できない」ということです。

田内さんによるとお金とは「知らない人と助け合うためのチケット」なのだそうです。例えば料理ができない人がトンカツを食べたいと思ったときに、トンカツと関係のない人のところへ行ってトンカツを作ってもらってはできませんが、トンカツ屋さんへ行ってお金を出せば美味しいトンカツ定食を作ってもらえて、食べることができます。知らない人に助けってもらったり、手伝ってもらったりすることは難しいことですが、お金を使うことにより知らない人に働いてもらいモノやサービスをスムーズに手に入れることができるのです。そう考えるとお金のむこう側には必ず人がいます。人は一人で生きていくことはできず、色々な人が互いに助け合い、支えあって生きています。お金は人と人を助け合うための道具であるのです。見方を変えれば働いてお金を稼ぐというのはそれは誰かを助けている、誰かの役立っているということだといえるでしょう。

今年の元旦に起こった能登半島の大地震では家屋が倒壊し壊滅的な打撃を受け、今でも多くの被災者が不自由な避難生活を強いられています。あの不自由な生活をみると水・ガス・電気などのインフラの重要性を改めて感じますし、それを復旧するために働いている人たちのことを考えます。また、倒壊した建物やがれきの山をみて、これもいずれ人の手で片づけなければならないと考え、人の力の重要性をひしひしと感じます。われわれは「能登地震の復興へ〇〇億円」という言葉を聞くとお金を払えば物事がすんなり解決するように感じますが、実際にはそこで働く人がいて初めての復興になるということに想像力を働かせる必要があります。

老後の問題も同じことがいえると思います。老後にお金が2千万円必要であるということが以前話題になりましたが、老後の問題は実はお金の問題ではありません。老後のためにいくらお金を沢山貯めたとしても、働いてくれる人がいなければそのお金は意味がありません。人口減少が進むわが国において、将来お金を持っていたとしても働いてくれる人がいなくなれば、豊かな老後の生活が脅かされる可能性は十分あります。

お金を使うということは自分の代わりに働いてもらうということだと考えると、どんな仕事であろうと我々が働いてお金を稼ぐとき、それは誰かの役にたち社会全体を動かしているといえます。お金が犯罪のために使われることは言うまでもなく悪いことですが、働くときにはその仕事を持つ意義、人のために役立つものであるかを真に考える必要があると思います。

「お金のむこうに人がいる」を読んで「お金」のこと、「働く意味」について考えさせられました。いい本ですので興味を持たれた方は是非ご一読ください。

文責 齋藤 幹